

こんにちは 山田耕平 です

2015.10.15 No.211

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11

TEL 090-9973-0941

ホームページ

<http://yamadakohei.jp>

杉並区議会第三回定例会決算特別委員会の締めくくり

党杉並区議団を代表して意見開陳

杉並区一般会計歳入歳出決算 他、各特別会計は不認定に

十月十五日、杉並区議会第三回定例会・決算特別委員会の締めくくりとなる各会派の意見開陳が行なわれました。

日本共産党杉並区議団を代表し、平成二十六年
度杉並区一般会計ほか各特別会計の歳入歳出
決算に対する意見開陳を行いました。

当該年度の各会計決算については、九月十五
日に特別委員会を設置して以来、全議員参加に
よる質疑が行なわれてきました。

これらの質疑を踏まえ、党杉並区議団は、一
般会計決算を不認定とすることを表明し、区政
運営の転換を求めました。

国の悪政の防波堤となり 住民生活を守る姿勢の欠如

決算審議では、国の悪政が進み消費税増税や社
会保障改悪が住民生活に重大な影響を与えてい
るもとで、杉並区が地方自治体の責務を果たし
住民生活を守る防波堤の役割を果たしてきたの
かを審査しました。



決算特別委員会では保健
福祉分野の審議を担当

党杉並区議団の各決算毎の認定結果

- 認定第1号 平成26年度杉並区一般会計歳入歳出決算
- 認定第2号 杉並区国民健康保険事業会計歳入歳出決算
- 認定第3号 杉並区介護保険事業会計歳入歳出決算
- 認定第4号 杉並区後期高齢者医療事業会計歳入歳出決算
- 認定第1号～4号までを不認定
- 認定第5号 杉並区中小企業勤労者福祉事業会計歳入歳出決算
- 認定第5号は認定

しかし、審議では区
民の現状・暮らしの実
態に、極めて鈍感な区
の姿勢が浮き彫りと
なりました。

区の姿勢は、各施策
の展開に共通する弱
点となっており、保険
料の引き上げや介護
保険制度改悪、子ども
子育て支援新制度移
行、生活保護費の切り
下げ等々、区民生活に
次々と押し寄せる
様々な負担増を軽減
することが出来てい
ません。

極めて豊かな財政力に応じた 施策展開の弱さと過大な溜め込み

一方、審議では、杉並区の極めて豊かな財政
力が明らかとなりました。この財政力を背景に
当該年度は五十億円が新たに基金に積み立てら
れました。着々と、五五〇億円の財政のダムを
目指した積み立てが進められています。この過
大な溜め込み直ちに改めるべきです。

様々な住民要求は莫大な経費を掛けずとも実
施出来るものであり、区民の生活実態と財政運
営が乖離しています。区民が主人公となる財政
運営に切り替えることが必要です。※裏面に続く

(表面続き) 着々と進められる施設削減方針…

住民合意の無い区立施設再編整備計画の強行

典型的なハコモノ行政への移行

天沼3丁目複合施設棟の建設費は約30億円程度ということが示され、既にあんさんぶる荻窪に配置されている各施設の大部分が移転されることが明らかになりました。

財産交換で失われるあんさんぶる荻窪は築十数年の新しい施設であり、過去の建設費等は約28億円です。これを手放し、新たに莫大な税金を注ぎ込み同じような機能を持っている庁舎を建設する、これは究極の税金無駄遣いであり、典型的なハコモノ行政です。杉一小を複合化・高層化し、阿佐ヶ谷の「ランドマーク」とすることも検討されています。



阿佐谷地域の新たなシンボル

阿佐谷地域のランドマークとなる魅力ある施設づくり

① セブンストリートメントをはじめとする地域イベントに活用するなど、阿佐谷のまちの魅力や文化を発信する施設として、まちのにぎわいを創出する施設とします。

② 産業振興と地域活動の拠点としての機能を併せ持つ、これまでにない施設として、区民の多様な活動を支え、地域の方から親しまれる施設とします。

杉並区立杉並第一小学校改築・複合化検討懇談会で配布された資料

住民との共同の姿勢が欠如

計画における住民との合意形成について、住民の理解を得て進めるという住民自治の基本姿勢が欠如しています。

あんさんぶる荻窪での住民説明会を行わない等、説明会の開催や住民との意見交換を積み上げる区の姿勢が極めて不十分な状況です。

見せかけの機能継承と場当たりの対応

区は、児童館やゆうゆう館等、廃止・転用される各施設の機能は継承されると強弁しています。しかし、現実的に動き出した再編計画を見れば、施設の機能劣化に他なりません。移転した「ゆうゆう阿佐谷館」はバリアフリー対応もされず、廃止される和泉児童館は未だに今後の対応を検討中です。

再編整備計画の全体において、計画の変更や修正なども相次いでおり、場当たりの対応と言わざるを得ない状況です。

住民サービスを天秤にかける姿勢

施設再編は施設廃止の根拠として、特養ホーム整備用地の確保などとしています。あんさんぶる荻窪の財産交換も200名規模の大規模特別養護老人ホーム整備の必要性が示され、財産交換の最大の理由とされてきました。

しかし、他自治体の事例に習い、小規模特養ホームなどの活用等、様々な手法を検討すれば用地不足の都市部においても特養ホーム整備は可能であることが明らかとなりました。

住民サービス同士を天秤にかけ、施設削減を強行する手法は自治体の責任放棄です。

住民の社会参加の阻害

当該年度から施設使用料が引き上げられ、団体割引制度が廃止されました。区内各団体が使用料負担増のため活動を自粛せざるを得ない状況が発生しています。

住民の社会参加を著しく阻害しており、重大な問題です。直ちに、団体割引制度を復活させることを求めます。

住民サービスを大幅に低下させる場当たりの対応が繰り返される

育メン日誌

過酷な議会も最終盤！

およそ一か月半の間、開会されていた第三回定例会も間もなく終了となります。一般質問～決算審議～意見開陳と、なかなかハードが議会となりましたが、新たに様々な問題等が明らかになる重要な議会となりました。

すぐに第四回定例会が始まります(11月中旬より)。次の議会に向け、直ちに準備を開始することになります。このようにして、あっという間に一年が過ぎていきます…(苦笑)。



会期中、家族にもかなりの負担をかけたので、家族サービスもしては！

実家には大変お世話になりました。

意見開陳の全文はホームページに掲載しています